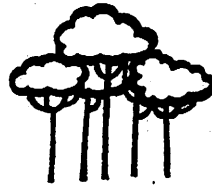


ひまわり メッセージ

4 0 号
2014. 7. 8.
西濃園城
飛達陣がいま接ひまわり
発行人: 中野たみ子

杉木立の中で



この梅雨の時期、子どもたちは機嫌が悪くはないで
しょうか。お母さん方はいかがでしょうか。敏感な子ど
もたちは、湿度や気圧などの変化にも不快を感じる
のではないかと思います。

私は、先週の日曜日に関ヶ原古戦場跡を訪ねま
した。知人の老齡のご婦人二人に頼まれていたので、
車で案内することにしたのです。

西軍びいきの私は、当然のことながら、石田三成の
密尾山、島津、小西行長と、西軍の陣跡を巡る
ことになりました。そして宇喜多秀家の陣跡のあた

りに車を走らせました。途中、地図を片手に歩く
家族連れに何組も出会いましたが、さすがに宇喜
多の陣まで足を運ぶ人はなく、「くま出沒」の看板
を見つ、私たちは車を下りて森林浴を味わいまし
た。あたりは一面杉木立で、樹々の間に射し来る木
洩れ日と、木立を渡る風が心地よく、ひとときの安ら
ぎを味わったのでした。

私の大好きな大谷吉継の墓は、山道を歩かねばな
らず、やむなく断念しましたが、忙しい日々の中で心の
ゆとりを取り戻すには十分な時間でした。

皆さんは、休日をどのように過ごされるのでしょうか。
子どもたちが登校しぶりをしたり、学校で暴れたり
するのは、日曜日が多いそうです。家庭でご家族のみ
なさんで楽しい時間が過ごせたからでしょうか。それと
も、制約なく自分の好きなことができたからでしょうか。
夜遅くまで遊び疲れたからでしょうか。

心をリフレッシュさせることはどういうことなのか、休
日の過ごし方も大切だなあと、思ったことでした。

発達障がいのある人の

理解と就労支援

～梅永雄二先生講演より～



五月末、揖斐川町で行われた梅永雄二先生の講演を聞きました。

梅永先生は、宇都宮大学の教授で、発達障がいの人たちの就労支援にたずさわっている方です。その講演の中で、私の心に一番残ったのは、「アメリカでは、子どもが二歳の時から、将来自立していくための様々な支援を始める」ということばでした。

二歳？と驚かれる方もきっといらっしゃるでしょうが私は、何となく納得してしまいました。そして、新居浜のトモニ療育センターの河島淳子先生のことを思い出していました。同時に、今までかわったお母さん方の必死の子育めのことも思い出したのです。

就職？、遠い将来のこと？、

でも、今からできることを！

昔から、「三つ子のたましい、百まで」と言われてきました。誤っている解釈かもしれませんが、私は、幼児期からの積み上げが大切であると思っています。子どもを育てていく時に「大きくなったらわかる」と無責任なことを言う人がいますが、決してそんなことはありません。特に幼い時から全て自分の思い通りにしてきた子が、大きくなって自分で折り合いがつけられるようになることは到底思えないのです。

幼児期に大切なこととして、私は常々基本的生活習慣の自立、からだづくり、社会性・コミュニケーション能力と言ってきました。でも、小学生や中学生と出合ってみると、この幼児期の基礎ができていない子どもたちが多いことに驚かされます。そして、その背景に、過剰な手伝いがあることにも戸惑いを覚えるのです。

身の回りのことは、最初から上手にできるはずがあ

りません。食事はこぼすでしょう。洋服は汚れるし床も汚れるでしょう。でも「自分でやりたい」という

子どもの思いは大事にされるべきでしょう。汚れるから、上手くできないからと手助けしたり、そのうちに

子どもは、何でもやってもらうおうとするでしょう。身の回りのこともやっていく中で育っていく体のバランス

やボディイメージ、手指の功緻性なども結局は育たず、自立も妨げていくことになります。個人能力

は高いのに、右と左の区別がつかない小学生や、おはしや鉛筆の持ち方がぎこちない子に出会うと、何

でもやってもらって大きくなったのかなと思えます。体づくりにしてもそうです。しっかり椅子に座れない子の何と多いことでしょう。トモニ療育センター

に通うのを許されるのは、毎日のマラソンを約束した母子に限られます。保護者がきちんと子どもと向き合って、親としての日課をこなせない人は

断るといふのがトモニ療育センターのスタンスなのです。厳しいですが、確実に子どもは変わっていく

きます。「かわいいから、何でもいいよ」と育った子は、ふんばりはききません。

コミュニケーションもそうですね。一方的に勝手なことはしゃべるのに、挨拶ができない、聞かれたことには一言、単語で答えるという子もいます。そして、気に入らないと「ムズツ」「ウゼー」など自分の思いをきちんと伝えられない子どもたちも多いですね。

これらのことは、どうして育てていくといいでしょう。ことばの大切さを見直さないといいけませんね。

梅永先生は、その他に「移動」のことも大切に考えておられます。公共の交通機関を使うことが殆どないのが日本の子どもたちです。便利ではあるけれど公共のマナーを学ぶこと、並んで乗ることや大声を出さないなど社会で生きていくための力もそこにはあります。感覚過敏の子が満員電車に乗りねばならないことも、当然想定しないといけないでしょう。

アメリカでの個別教育計画(IEP)に含まれる個別移行計画には、次の十一項目があるそうです。

- ・移動能力……方向音痴？時間概念？
 - ・身辺自立……衣服の選択、身だしなみなど
 - ・医療・保健……健康管理、病状説明など
 - ・居住……ごみ出し、そうじなど
 - ・余暇……人と一緒に行動できない
 - ・対人関係
 - ・地域参加……不登校、ひきこもりなど
 - ・教育・就労……学習
 - ・お金の管理……無駄づかい、貯金など
 - ・法的な問題……犯罪に巻きこまれるなど
 - ・毎日の生活……食生活、訪問販売など
- 小さい時から、このようなことを考え、将来の自立に向けて、厳しく愛情をもって子育てをしていくことが、きっと就労にも役立っていくのだろうと思います。自分の子が、どんな特性があり、どんな仕事に向いているのか、どのようなスキルを身につけていけばいいか、考えていけるといいですね。
- 梅永先生によると、対人関係スキルを身につけた

ために、様々なトラブルに巻きこまれることもあ
るそうです。高価な化粧品を買わされたり、宗
教団体に入会させられたり、万引の仲間になれ
りといったこともあるといいます。原因として、何を
どうしていいのかわからず、先の見通しもつこと
ができなかったことが考えられるそうです。

そうすると、何かあったり、すぐに相談できる場
（人）があること、本人を理解して適切なサポー
トをしてくれることが、まず大切だと言えると思
います。

自分に合わない職種を選んでしまったために、何
度も離職をくり返し、結局うつ病になってしま
う人も多いといいます。周りの人たちに理解して
もらうこと、苦手なところをサポートしてもらうこ
とが必要なのですよね。発達障がいへの理解は、
まだまだ進んでいないのが現状です。私たち一人
ひとりが理解者になっていけるといいなあと思っ
ています。

個人能力と

集団に合わせる力



個別に二対一で検査をしていると、とても高い価
値を示す子がいます。その数値だけが一人歩き
をすると、何も問題のない、能力の高いお子さ
んだという評価になるでしょう。ところが、実はこ
の個人能力は、集団の中で周りに合わせて
いく力とは全く別なのです。

二対一の関係の中では、できても、集団の中で先生
の話を聞けるとは限りません。まわりの様々なこ
とや目に入るものに気が散らずに、長く一つのこと
に集中していうれるとも限りません。

ところが、お母さんたちは、個人能力だけを見て
「うちの子は、できる子だし、家では何の問題も
ありません」と言われることが多いのです。でも、
集団に合わせる力の評価こそ、とても大事なこ
となのです。

では、家庭の中でどんなことが集団に合わせる
力なのか、ちょっと考えてみましょう。

① お母さんが話をする時、必ず聞いています
か？

二対一でも人の話が聞けないのに、集団で話さ
れたことを聞いていられるはずがありません。

② 夕食時間、「ごはんよ。」と言ったとき、遊ん
でいた手をやめてすぐに気持ちを切りかえる
ことができませんか？

自分の気持ちに折り合いをつけるというのは、
なかなか難しいことです。しかも年令が上がる程
自分の要求をコントロールすることが難しくなっ
ていくものです。

③ 刺激が入りすぎることはありませんか？

お母さんが話をしているのに、目に入ったものを
すぐに言ったり、取りに行ったりしませんか？
情報を把握する力というのは、様々な感覚がにな
っています。過敏に反応しすぎると、集団の中では
うまく合わせられません。お子さんの状態をじっく

り観察してみまよう。

④ 時間軸の中で、「きのう」「今日」「あした」「した時」などと考えることはできますか？、

時間の概念が育っていないと、見通しを立てて行動することが難しいのです。

⑤ 優先順位がつけられますか？、

今、学校へ行くための準備をしなければいけないのに、他のおもちゃに気が行って、やらなくてはならないことを忘れてしまうなど。

もちろん、私たち大人でも、やらなくてはならないことがわかっていても、そこから逃れようとして別のことをしてしまうことはありますが、そういうことではなく、何が一番にやるべきかわかっていないということなのです。

⑥ 自分が決めたルールに相手も従わせようとすることは、ありませんか？、

自分ほくすることに決めた！だから変えられないのです。百点採ることに決めたとか、そ

うじはしないと決めたなど、子どもたちは、そのために結構困っているのです。

こんな時家庭の中でも意図的にかかわって、子どもたちが自分のルールでなく、集団のルールを理解していけるようにしていつてあげたいものです。

ほんの少しの時間でも待つことができたり、話が聞けたりできたりはめてあげたいし、自分で今何をする時だったかに気づけば認めてあげたいし、子どもの気持ちを受け止めつつ、集団に合わせる力を育んでいきたいですね。

お知らせ



❀ ひまわりからのメッセージを検索してみてください。表紙だけでなく全文が掲載していただけになりました。(ネット上)

❀ 八月の親の会はお休みです。九月は九日の予定です。